

管内の百名山「筑波山」



筑波山遠景



女体山から関東平野を望む

筑波山は、茨城県の八溝山系の南端部に位置し、山頂部は、西側の男体山（標高871㍎）と東側の女体山（標高877㍎）からなる山です。

古くから、その美しい姿は「西の富士、東の筑波」と言われ、日本百名山、日本百景に挙げられており、山頂からは関東平野が一望でき、天気の良い日には、遠く富士山を望むことができます。

筑波山は、都心から比較的近く、常磐自動車道、つくばエクスプレスなどの交通アクセスも整備されています。また、山頂への登山用としてのケーブルカー、ロープウェイがあり、子供から高齢者まで容易に登山でき、下山時の登山道沿いには、「がま岩」や「弁慶の七戻り」などの奇岩が多くあり、登山者を楽しませてくれます。

また、麓から頂上へは多くの登山ルートがあることから、健脚の登山者も多く訪れます。

山頂の男体山と女体山には、筑波山神社の本殿が祭られ、中腹には筑波山神社拝殿があり、多くの参拝者が訪れています。



筑波山神社拝殿

筑波山全体の森林概況は、東側の中腹から山頂付近までが国有林で、西側は筑波山神社の社有林となっています。

筑波山全体の植生は、中腹まではスギやヒノキが見られ、標高約600㍎から山頂付近までは、ブナやシデ類など広葉樹の天然林で占められています。

また、山頂部のブナ林は、学術的にも貴重な植生として存続させるため、茨城県等による調査が進められています。

関東平野に一つ突き出た筑波山は、茨城県における自然のシンボルとして、また、気軽に登山が楽しめる国民の山であり財産です。

茨城森林管理署は、この自然を後世に残していきたいように、これからも管理・保全に努めていきたいと考えています。



国有林内のブナ林